

男女別学教育に注目！！

6月30日（月）18:00より、東京の品川女子学院講堂で第3回男女別学教育シンポジウムが開催され、参加してきました。基調講演では日本男女別学教育研究会代表・教育評論家の中井俊巳先生が『男女別の育て方・教え方で子どもは伸びる』と題して講演した後、女子校、男子校、共学ですが授業は別に行っている学校、共学ですが別棟で別学授業を行っている学校、共学ですが中3・高1で別学をやっている学校がパネルディスカッションを行いました。中井先生は、日本では子どもの自己肯定感が非常に低いので、高めることの大切さを強調し、男女別学の方が自己肯定感を高めやすいと話していました。そして男女別学の利点として次の5点をあげていました。

①男女の特性（違い）に応じた教育ができる。

のびのびと個性が伸ばせる→明るい・楽しい・自己肯定感が高くなる

②異性の目を気にせず個性を伸ばせる。

③男女ともに主役になれる。

授業・行事でリーダーシップがとれる

④教師のサポート・模範（ロールモデル）

女子校には女性教師（先輩）が多い

⑤学力が向上しやすい（大学進学実績が高い）

全体の10%に満たない別学校が進学トップ校を占める

- ・日本では出身校別東大合格者数：トップ10校のうち上位8校が別学。
- ・イギリス・ニュージーランド・韓国などでも男女別学校が成績上位を占める
- ・アメリカでは2002年に男女別学が認められる。（1972年～2002年禁止）

NCLB法「落ちこぼれの子をつくらないための初等中等教育法」



アメリカの公立学校で男女別学クラスが急増

1994年4校→2014年540校以上

遺愛の生徒達の様子を見ている、本当にのびやかに生活しているのが実感されます。遺愛の卒業生にアンケートをとっても「遺愛は女子校なので楽です。楽しいです。素でいられます。自分らしさを素直に出せます。みんなで頑張れます。」という声が毎年、圧倒的に多いです。成る程と肯ける話しが多いシンポジウムでした。

2014年7月4日（金）

